

生協のなかま

発行 全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-9 南部ビル3F

TEL03 (3408) 0067 FAX03 (3408) 8955

http://cwu.jp/

E-mail: QYG03057@nifty.ne.jp

毎月1日1回発行 定価1部30円(送料別)

組合員の本紙購読料は組合費に含む

編集責任者: 桑田富夫

第485号 5月号

2011年5月1日

つながった命 生協のなかまとともに

出産直後に
地震、そして
津波の轟音

3月11日午後2時19分、下澤悦子さんが女の子を出産。

夫の大樹さんが体重2610グラムを確認した直後、大きな揺れが襲いました。しばらくすると轟音が。「津波だ!」全員が病院の3階と屋上へ。津波は病院の2階まで襲いました。翌日、病院長より「このまま病院にとどまっても、どうすることもできない」と告げられ、大樹さんと悦子さんは生まれたばかりのわが子を連れて帰宅を決意。産湯にも入っていない赤ちゃんは紫色になり、悦子さんは抱いて寒さから守るしかありませんでした。

産湯へ
そして命が
つながった

食料を購入しにでかけた大樹さんは、岩手県学校生協沿岸事業所(宮古市)職員・小笠原茂人さんの妻美樹子さんと出会いました。美樹子さんは、生まれたばかりの赤ちゃんのことを聞き「とにかく私の家に来なさい」と青白くなった赤ちゃんを下澤夫婦を自宅へ連れて帰りました。薪ストーブでお湯を沸かし赤ちゃんをお風呂へ。「体は紫色でした。お湯で体を洗うと気持ちよさそうな顔をしたんです。生まれてすぐに地震でしたから、ずっとお風呂に入りたかったでしょうね」。ろうそくや懐中電灯を照らしながらの産湯。小笠原さん一家がいのちを救った瞬間でした。

命名
「さくら」ちゃん

女の子には「さくら」と名付けられました。大変な状況のなかで命がつながりました。さくらちゃんの成長を生協のなかまも見守っていきたいと思います。

(取材: 生協のなかま編集委員 野々山大輔)



小笠原茂人さん(右)一家と下澤大樹さん・悦子さん(右より2・3人目)